

取扱説明書

VEYPR **SUB4**



日本語



ベイプル サブ4 取扱説明書
UM-VeyprSub4-022-EU

車いすの
使用方法

RGK製品をお選びいただきまして誠にありがとうございます。

RGKファミリーへようこそ！

ご期待以上の製品とサービスをお届けできたことと願っております。最大限の安全性、性能、耐用年数を確保するため、説明書をよくお読みになり、新しい車いすに慣れてください。

私たちは、お客様に私たちの製品とサービスに十分満足していただきたいと願っており、常に製品のさらなる開発に取り組んでいます。そのため、形状、技術、設備に関して、当社の製品に変更が生じる可能性があります。したがって、この取扱説明書に記載されているデータおよび画像から、いかなるクレームも解釈することはできません。

設定ガイド：

1. 箱から製品と緩んでいる部品を慎重に取り出し、梱包材に何も残っていないことを確認してください。
2. 取扱説明書の内容をよく読み、安全上のリスクを理解してください。
3. ホイールと部品を取り付けます。
4. タイヤ空気圧を含め、すべてが想定通りで、すべての部品が固定され、機能し、正しく設定されていることを確認します。
5. あなたの姿勢と快適さの要求に合わせて、適切なレベルのサポートが得られるように張り地(座布、背布)を調節してください。
6. 必要に応じてフットプレートの高さを調節し、足とバランスを正しくサポートしてください。
7. 準備が整い、安全な環境で、慎重に新しい車いすに乗り換え、正しく機能することを確認してください。
8. 屋外や荒れた路面に出る前に、車いすを十分にテストし、バランスポイントや車いすの機能に自信があることを確かめてください。
9. 車いすの設定についてご不明な点がございましたら、お近くの正規販売店までお問い合わせください。スムーズな移動をお楽しみください！

警告：

この取扱説明書を読まず、理解していない状態で、この製品を操作しないでください。警告や指示を理解できない場合は、この機器を使用する前にRGKまたは医療専門家（医師 / セラピスト）に連絡してください。さもないと、人身事故や装置の損傷につながる恐れがあります。

注意：

B4M 特注加工

B4Me製品が製造者の意図したとおりには作動し、機能することを確認するために、RGK は、初めて製品を使用する前に、B4Me製品に付属したユーザー情報をすべて読み理解することを強く推奨します。

また、RGKでは、ユーザー情報を読んだ後に廃棄せず、今後の参考のために安全に保管することを推奨しています。

注意：

欧州医療機器規定(MDR) (EU) 2017/745

一般ユーザーへのアドバイス。

これらの指示に従わない場合、身体への傷害、製品の損傷、または環境破壊につながる可能性があります。

利用者及び／又は患者への通知：機器に関連して発生したいかなる重大な事故も、製造業者および使用者または患者が居住する加盟国の所轄官庁に報告されなければなりません。

製造元であるサンライズメディカルは、医療機器規則（2017/745）に軽量車いすが適合することをここに宣言します。

注意：

医療機器との組合せ

この医療機器と他の医療機器または他の製品との組み合わせが可能な場合があります。どのような組み合わせが可能かについては、以下を参照ください。

www.Sunrisemedical.co.uk

記載されているすべての組み合わせは、一般的な安全要件と性能要件を満たすことが検証されています：医療機器規則2017/745のAnnex I Nr.14.1

サンライズメディカルの運営するマネジメントシステムは、ISO 13485の認証を取得しています。

本製品は、EUおよび英国の規制で定められた基準に準拠しています。



製造元であるサンライズメディカルは、本製品が医療機器規則（2017/745）に適合することをここに宣言します。



製造元であるサンライズメディカルは、本製品が英国医療機器規制2002年第618号に適合していることを宣言します。

Sunrise Medical GmbH
Kahlbachring 2-4
69254 Malsch/Heidelberg
Deutschland
Tel.: +49 (0) 7253/980-0
Fax: +49 (0) 7253/980-222
www.SunriseMedical.de

内容

- 4 日常用 手動車いす
- 5 安全に関するまとめ
- 9 整備点検チェックリスト
- 10 トラブルシューティング ガイド 機械構造
- 11 手順 1 - 張地
- 12 手順 2 - リアホイール（後輪）
- 13 手順 3 - タイヤ と チューブ
- 13 手順 4 - キャスターホイール と フォーク
- 14 手順 5 - ブレーキ
- 15 手順 6 - フットレスト
- 15 手順 7 - プッシュハンドル
- 16 手順 8 - 転倒防止
- 16 手順 9 - サイドガード
- 17 輸送
- 18 技術的データ
- 20 識別番号 / シリアルナンバー
- 21 製造会社保証

定義

注意：

一般的な忠告または最善のやり方

⚠ 注意：

注意事項に従わない場合、機器に損傷を与える可能性があります。

⚠ 警告：

注意事項に従わないと怪我をする危険性があります。

⚠ 危険！

注意事項に従わない場合、重傷事故または死亡事故が発生する可能性があります。

注意：

注意：

車いすの操縦には、十分な認知能力、身体能力、視覚能力が必要であることにご留意ください。使用者は車いすを操作している間、その行動の影響を評価し、必要であればそれを修正することができなければなりません。サンライズメディカルは、製造業者として、任意に追加された部品の性能およびの安全な使用を評価することはできません。これに起因する損害については、一切責任を負いかねます。

車いす及び追加取付部品の説明書をご参照ください。車いすと追加取付部品の安全な使用方法を使用者に指導してください。読み、理解し、遵守すべき特定の警告をユーザーに知らせてください。

注意：

本取扱説明書に示され、説明されている車いすは、細部に至るまでお客様のモデルと完全に一致するとは限りません。しかし、考えられる細部の違いに関わらず、すべての指示は完全に関連しています。製造元は、本書に記載されている重量、寸法、その他の技術データを予告なく変更する権利を有します。本書に記載されている数値、寸法、容量は概算であり、構成要素となる仕様ではありません。

注意：

お近くの正規販売店の連絡先をメモしておいてください。故障の際には、迅速に対応できるよう、関連するすべての情報を伝えるようにしてください。

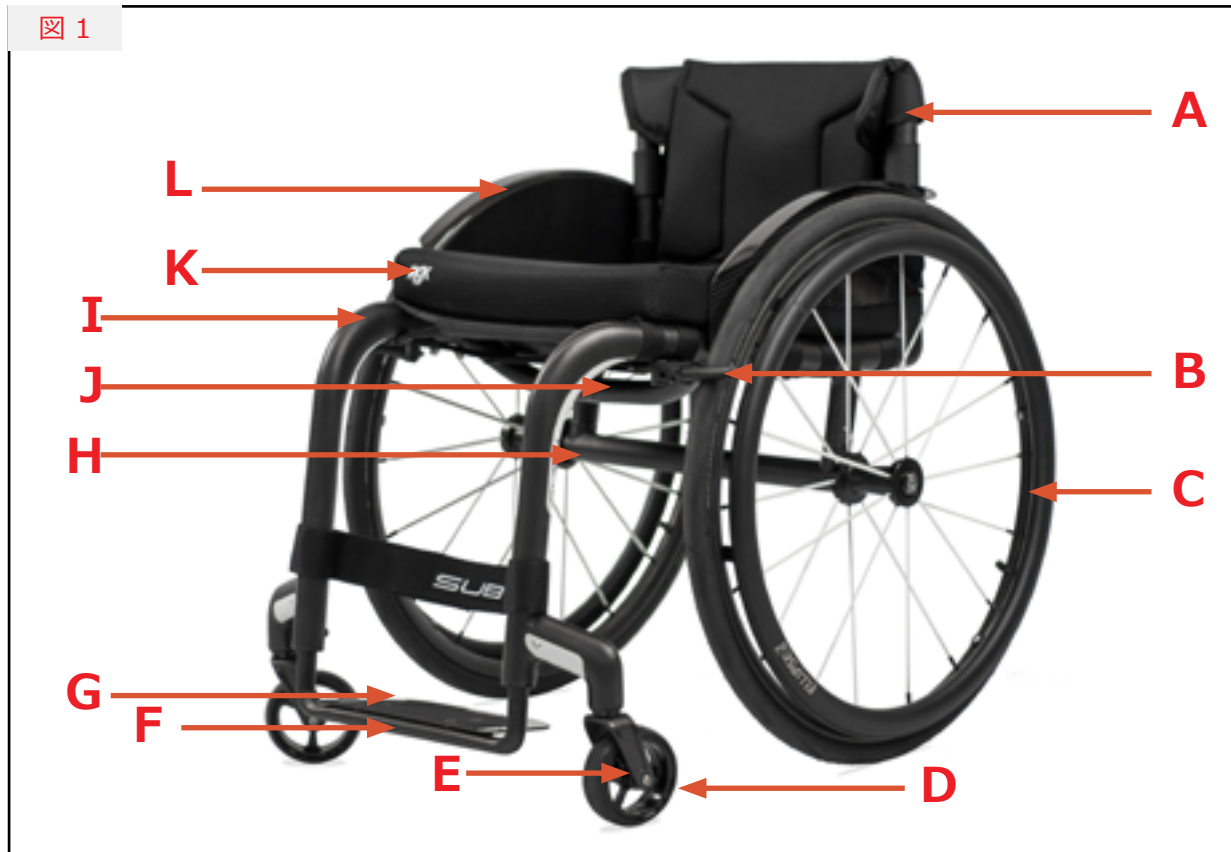


ISO 7010-M002

取扱説明書/小冊子は必ずお読みください！！(青いアイコン)

日常用 手動車いす

図 1



A - バックレスト

B - ブレーキ

C - リアホイール

D - キャスターホイール

E - キャスターフォーク

F - フットレスト

G - フットプレート カバー

H - キャンバー アクスル(車軸)

I - フレーム

J - シート下 補強バー

K - クッション & カバー

L - サイドガード

安全に関するまとめ

使用

車いすは、歩行が困難な、または移動に制限のある小児および成人専用のもので、家庭内および屋外において、自走および第三者による移動（介助者が押す）のために使用されます。最大重量制限（使用者の体重と車いすに装着された付属品の重量の両方を含む）は、車いすのキャンバーアックスル（車軸）またはシート下補強バーに貼られたシリアルナンバーのラベルに記載されています。

製品が指定された条件下で、意図された目的のために使用された場合にのみ、保証を受けることができます。

車いすの想定寿命は5年です。

RGKが正式に承認していない限り、第三者の部品を車いすに使用したり、取り付けたりしないでください。

適用領域

設定のバリエーションとモジュラー式設計が豊富です。

下記のような理由により、歩けない方や移動に制限がある方にお使い頂けます：

- 麻痺
- 四肢の喪失（脚部切断）
- 四肢の欠損変形
- 関節拘縮/関節損傷
- 心臓や循環不全、平衡感覚障害、悪液質などの病気や、上半身にまだ力がある高齢者

使用を検討する際には、体の大きさ、体重、身体的状況、精神的状況、年齢、生活状況や生活環境なども留意してください。

個人が使用する車いすの種類の最終的な選択は、使用者とそのような選択をすることができる医療専門家のみが行うことができます。

一般的な安全性

この車いすのエンジニアリングと構造は、最大限の安全性を提供するために設計されています。適切な箇所において、現在施行されている国際安全基準が満たされています。しかし、車いすの使い方を誤ると、ユーザー自身が危険にさらされる可能性があります。お客様の安全のために、以下のルールを厳守してください。

専門外のあるいは誤った変更や調整は、事故の危険性を高めます。車いすユーザーもまた、他の人と同じように道路や舗道での日常的な通行人の一員なのです。そのため、すべての交通法規が適用されます。

新しい車いすを初めて使用する際は、慎重に行い、屋外や難しい障がい物に挑戦する前に慣れ、自信を深めてください。特に上り坂や下り坂では、地面にくぼみや凹凸があると、この車いすは転倒する可能性があります。段差や傾斜を乗り越えて前進するときは、体を前傾させてください。

毎回使用する前に、以下を確認してください：

- 後輪のクイックリリースアックスル

警告：

車いすですり下り坂を高速で走行すると、キャスターのフラッターを引き起こす可能性があります。これは不安定につながり、人身事故につながる可能性があります。

- シートと背もたれのベルクロ
- タイヤとタイヤ圧
- ブレーキ

この車いすの調整部分を変更する前に、取扱説明書の該当箇所を読むことが重要です。

警告：

窒息の危険 - この移動補助器具には小さな部品が使われており、状況によっては小さなお子様が窒息する危険があります。

危険！

使用者の体重と車いすに積んでいる荷物を含み、ベイブルサブ4の最大耐荷重110kg（アダプタータイプのバイクを使用する場合は85kg）を絶対を超えないようにしてください。軽量オプションは別途お見積もりとなりますので、重量情報にご注意ください。最大荷重を超えると、車いすの破損につながったり、転倒、落下、制御不能になり、使用者や他の人に重大なケガを負わせたりする可能性があるため、ご注意ください。

安全に関するまとめ 続き

- 身体障害者用の特別仕様車での移動中は、可能な限り、車両の座席に座り、適切な固定器具を使用してください。万が一の事故の際、ユーザーを最大限に保護するための唯一の方法です。
- 転倒や危険な状況を避けるために、まずは見通しのよい平らな場所で新しい車いすの使い方を練習してください。
- この車いすは、一度に一人の人が移動するためだけに使用されるべきです。それ以外の使用は、意図された使用目的に合致しません。
- 車いすに乗り降りする時はフットプレートを使わないでください。移乗する前に、フットプレートは跳ね上げておき、できるかぎり外側に開いておいてください。(該当する場合)
- キャスターの直径や設定、車いすの重心位置 (COG) 設定によっては、高速走行時にキャスターがふらつき始めることがあります。キャスターがブロックされ、車いすが転倒することがあります。
- 特に、ブレーキなしで傾斜地を走行したり、速度を落として走行したりしないでください。斜面や傾斜地に横向きに走行すると、車いすが横向きに転倒する可能性が高くなります。
- 重心を変えることで、車いすの動きにどのような影響があるのかを探ります。例えば、傾斜地、スロープ、あらゆる勾配、障がい物を乗り越えるときなどです。誰か安心できる方に手伝ってもらって行ってください。
- 慣れていない方は、転倒防止チューブの使用を推奨します。

筋肉トレーニング

RGK は車いすをウェイトトレーニング器具として使用することを推奨していません。本製品は、いかなるウェイトトレーニング用のシートとして設計、テストもされていません。利用者が当該車いすをウェイトトレーニング器具として使用した場合、RGKは人身傷害または器具の損傷について責任を負わず、保証は直ちに無効となります。

安定性とバランス

車いすを安定させ、正しく操作するためには、常にバランスを保つ必要があります。車いすは、重心位置 (COG) を超えない限り、通常の日常生活において直立し、安定した状態を保つように設計されています。車いすの上での動きを伴うすべての活動は重心位置 (COG) に影響を与えます。

前傾姿勢をとるときは、必ずキャスターが後方に向いていることを確認してください。車いすを前進させ、直線上で反転させるとキャスターが後方に向きます。図 2 参照



図 2

キャスターポジション 後方

警告：

極端な高温または低温の場所に製品を放置すると、表面が熱くなったり冷たくなったりして、人身事故の原因となることがあります。

本製品やその付属品を、タバコを含む過度の熱や裸火にさらさないでください。

本製品には可動部があるため、指を挟む恐れがあります。移動の際は細心の注意を払ってください。

警告：

フットレストの位置、キャンパーチューブ、高さ、背もたれの張り具合は、車いすの安定性に直結します。この3つのうち、どれか1つ、あるいはどれか1つの組み合わせを変更すると、車いすの安定性が低下する可能性があります。新しいシートポジションを初めて使用する際は、細心の注意を払ってください。

警告：

タイヤ圧

適正なタイヤ空気圧(P.S.I)でなければ車いすを使用しないでください。

タイヤに空気を入れ過ぎないでください。これらの指示に従わないと、タイヤが破裂して人体に危害を及ぼす恐れがあります。

安全に関するまとめ 続き

- 転倒防止チューブは、車いすが不用意に後方に倒れるのを防ぐものです。どのような場合であっても、トランジットホイール（輸送用車輪）の代わりとして、リアホイール（後輪）を外して車いすに乗った人を輸送するために使用してはいけません。
- 極端な設定（後輪が1番前のポジションに設定されている等）や、最適な姿勢でないと、平らな場所でも転倒することがあります。
- 車いすのプッシュハンドル、ヘッドレスト、背もたれには、買い物袋やリュックサックなどの重いものを掛けしないでください。これらによって転倒点が変わり、後方に転倒する危険性が生じます。
- 車いすの前方、側方、後方にあるものに手を伸ばすときは、車いすから大きく身を乗り出さないように注意してください。重心位置が変わると、転倒や横転の危険性があります。
- 車いすを使用する際は、十分に注意してください。
例えば、ブレーキをかけずに障がい物に突進したり（段差、縁石）、段差を飛び降りたり、エスカレーターを使用したりすることは避けてください。
- 階段の昇降は、必ず介助者の手を借りて行ってください。スロープやリフトなど、お客様をサポートする設備がありますので、ご利用ください。もし、そのような設備がない場合は、車いすを傾けて押し、段差を乗り越えてください。（2名の補助）
- 一般的に、転倒防止チューブは、予め段差に接触しないように設定しておく必要があります。そうでなければ、大きな転倒につながりかねません。その後、転倒防止チューブを正しい位置に戻す必要があります。
- 介助者が車いすを持つ際は、しっかりと取り付けられた部品のみを掴むようにしてください。（例、フットレストやサイドガードなどではなく）
- 昇降スロープを使用する場合、取り付けられている転倒防止チューブが危険範囲の外にあることを確認してください。
- 凹凸のある場所や移動の際は（例 車の中へ）、ブレーキを使用して車いすを固定してください。
- ブレーキは、タイヤ空気圧が十分で、正しく設定された場合にのみ機能します。（「ブレーキ」の章を参照）
- 暗い時は、明るい服装や 反射する衣類で、見えやすいように工夫してください。反射部分が、車いすの側面と後ろからはっきり見えることを確認してください。また、アクティブライトの装着もおすすめします。
- 車いすの調整、特にブレーキ、転倒防止、背もたれなどの安全性に関わる部品の調整は、必ず正規販売店で行ってください。
- 製品全体、特に張地はこまめに洗浄・消毒することをお勧めします。
- 補助がない状態で、車いすを傾けないでください。
- 1度しか使用できない留め具の再利用はしないでください。
- ブレーキは、走行中の車いすを止めるためのものではありません。車いすが不用意に転がり始めないようにするためだけのものです。不安定な場所で停まる場合は、意図せぬ動きを防ぐために、必ずブレーキを使用してください。必ず両側のブレーキをかけてください。さもないと、車いすは転倒する可能性があります。
- ブレーキは、移動する車いすのブレーキとして使用するようには設計されていません。
- いつもエレベーターやスロープをお使いください。これらが利用できない場合は、誰かに助けを求めるべきです。車いすにしっかりと固定されている部分のみを握るようにしてください。転倒防止チューブが装着されている場合は、折りたたんでおきましょう。車いすは、人が乗った状態で、持ち上げられるべきではありません。必ず押されるべきです。
- 張地(座布と背布)が破損した場合は、すぐに交換する必要があります。
- 車いすをバックチューブやプッシュハンドルで持ち上げたり、運んだりしないでください。
- 火気、特に火のついたタバコに注意してください。座布と背布は、可燃性です。

適応：

フィッティングのバリエーションとモジュラー式設計が豊富です。下記のような理由により、歩けない方や移動に制限がある方にお使い頂けます：

- 麻痺
- 四肢の喪失（脚部切断）
- 四肢の欠損変形
- 関節拘縮/関節損傷
- 心臓や循環不全、平衡感覚障害、悪液質などの病気、神経疾患パターン、筋ジストロフィー、片麻痺、また上半身にまだ力がある高齢者

禁忌事項：

以下の場合、車いすは介助者なしで使用できません。：

- 知覚障害
- 平衡失調
- 両腕の喪失（介助者がいない場合）
- 両腕の関節の拘縮や関節の損傷
- 座位障害

安全に関するまとめ 続き

- 後輪にクイックリリース式車軸を使用している場合は、必ず正しくセットしてロックしてください。クイックリリース式車軸のボタンを押さないと、後輪を取り外すことはできません。
- 特に軽量の金属製ハンドリムを使用した場合は、速い速度からブレーキをかけた時や長い坂道で指が熱くなりやすくなります。
- 直射日光に長時間さらされると、車いすの一部（フレーム、レッグレスト、ブレーキ、サイドガードなど）が、高温（41℃以上）になることがあります。
- 手の怪我を防ぐため、車いすを走行するときはスポークの間や、後輪とブレーキの間をつかまないでください。
- 5°以上の傾斜地では車いすを使用しないでください。
- 動的安全傾斜は、車いすの構成、ユーザーの能力、車いすの乗り方により異なります。ユーザーの能力や、乗り方が分らないと、最大安全傾斜は決められません。そのため、転倒を防止するために、介助者の補助のもとユーザー自身が判断する必要があります。経験の浅いユーザーには、転倒防止の使用を強くお勧めします。
- ぬかるみや凍結した地面では車いすを使用しないでください。
- 歩行者の立ち入りが禁止されている場所では車いすを使用しないでください。
- 車いすは大雨、雪、滑りやすい路面、不安定な路面では注意して使用してください。
- 危険な環境では車いすを使用しないでください。

注意：

車いすのカーボンの表面を掃除するときは注意してください。仕上げの洗浄には、刺激の強い洗浄剤を使用しないでください。フレームの洗浄には、可能な限り水を使用することをお勧めします。

整備点検チェックリスト

注意：

定期的にお手入れをすることで、部品の緩みや磨耗が目立たなくなり、車いすのスムーズな操作性が向上します。車いすを正しく安全にお使いいただくためには、他の乗り物と同じようにお手入れをしていただく必要があります。定期的なメンテナンスは車いすの寿命と効率を延ばします。最初の調整は、個人の体の構造や好みに合わせて行う必要があります。車いすを長期間保管する場合は、それ以上の措置は必要ありません。車いすは、強い日差しの当たらない乾燥した場所に常温で保管してください。再び使用する前に、車いすを正規販売店で点検してください。その後は、以下に概説するメンテナンス手順に従ってください：

アイテム	使い始め	点検/調整 毎週	点検/調整 毎月	点検/調整 毎年
一般事項 - 車いすは真っすぐ進む（過度の引きずりや片側への引っ張りがない） - フレームの亀裂、損傷を点検する - すべての留め具、構成部品が固定されているか点検する	✓		✓	✓
表面仕上げ カーボンフレームを点検し、ラッカー仕上げに破損がないか、カーボンファイバーの表面が露出していないか確認する	✓		✓	
ブレーキ - 車いすを漕ぐ時にタイヤに干渉していないか点検する - 支点に摩耗や緩みがない - ブレーキが簡単に掛けられる	✓ ✓ ✓		✓ ✓ ✓	
座布と背布（張地） - 裂け目やたるみがないか点検する - 留め具のフラップ（張り出し部分）を点検し、しっかりとロック（留まる）していることを確認する	✓ ✓		✓	✓
リアホイール（後輪） - 調整可能なアクスル(車軸)ポジション キャンバーバー（はしっかりと締め付けられている - クイック/クアド リリース アクスル(車軸)は適切に固定されている - 持ち上げて回転させても、過度の横揺れや ひっかかりがない	✓ ✓ ✓	✓ ✓	✓	
ハンドリム 表面のざらつきや剥がれを点検する	✓	✓		
スポーク - 曲がったり、折れたスポークがないか点検する - すべてのスポークは均一に締められている	✓ ✓		✓ ✓	
前輪キャスター - キャスターを回転させ、ホイール／フォーク アセンブリーに適切な張力があるか点検する。キャスターは徐々に停止するはずである。 - ホイールが著しくふらついたり、引っかかって止まったりする場合は、ロックナットを緩める／締める。 - ホイール ベアリングは清潔で、水分がないこと 注意：他の車両と同様、ホイールとタイヤは亀裂や摩耗がないか定期的に点検し、必要に応じて交換すること。	✓ ✓ ✓		✓ ✓ ✓	✓
タイヤ - 薄い箇所、空気が抜けている箇所や摩耗の点検 - 空気入りタイヤの場合、空気圧が適切かどうか確認する 注意：他の車両と同様、ホイールとタイヤは亀裂や摩耗がないか定期的に点検し、必要に応じて交換すること。	✓ ✓	✓ ✓		
清掃	✓		✓	

トラブルシューティング ガイド 機械構造

車いすが 右に 曲がる	車いすが 左に 曲がる	曲がるの が遅い パフォーマンスが 悪い	キャスト ーのふら つき(フラ ッター)	キーキー 音とガラ ガラ音	車いすの ゆるみ	解決方法
✓	✓	✓	✓			タイヤの空気圧が適正か、均等か確認する
		✓	✓	✓	✓	キャストーステムナットの緩みを点検する すべての固定具がしっかりと固定されているか確認する
				✓	✓	スポークの張力を点検する
✓	✓		✓			両方のキャストーが同時に地面に接触していることを確認する

警告：

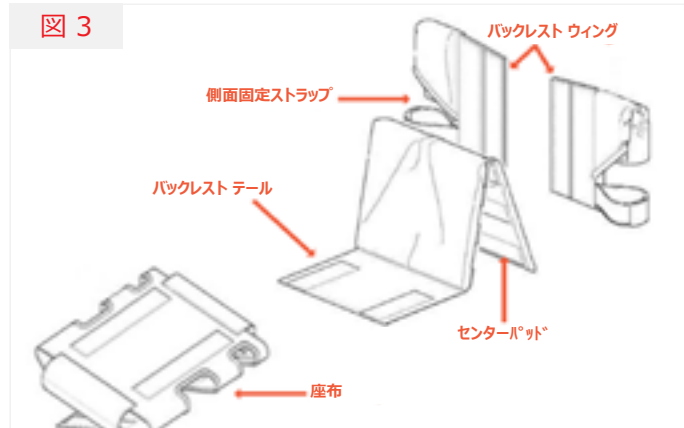
調整後は、車いすを使用する前に必ず部品が正しく締め付けられていることを確認してください。フレームに取り付ける金具は締めすぎないこと。これは車いすの損傷の原因となります。

手順 1 - 張地

張地は自由に調整可能です。新しい車いすに適切なバランスと快適性を提供できるよう、簡単に調節することができます。

1.1: 座布の調整

図 3



車いすからクッションを取り外します。座布は、シート下側のストラップの張力を強めたり弱めたりして調整します。(図4) ストラップがしっかりと固定されるよう、ベルクロがしっかりと接触していることを確認してください。取り外すには、ストラップをすべて外し、取り外してください。

図 4



1.2: バックレストの調整

車いすからクッションとセンターパッドを取り外します。バックレストは、背布裏側のストラップの張力を強めたり弱めたりして調整します。(図5) 取り外すには、ストラップをすべて外し、取り外してください。

1.3: クッションカバーの交換

車いすからクッションを取り外します。クッション後部のベルクロポケットを開き、必要に応じてフォームを取り出したり交換したりします。(図 6)

図 6



警告：

フットレストの位置、キャンパーチューブ、後座高、そして背もたれの張り具合は、車いすの安定性に直結します。この4つのうち、どれか1つ、あるいはどれか1つの組み合わせを変更すると、車いすの安定性が低下する可能性があります。新しいシートポジションを初めて使用する際は、細心の注意を払ってください。

注意：

張地についているベルクロは、何かに密接に触れると、ほかの物に傷や破損を引き起こす恐れがあります。

図 5



手順 2 - リアホイール（後輪）

後輪は、クイックリリース式で、頻繁に着脱するように設計されています。フレームに後輪を固定するため、すべての後輪にクイックリリースアクスル（車軸）ピンが使用されています。長さが違って、機能は同じです。

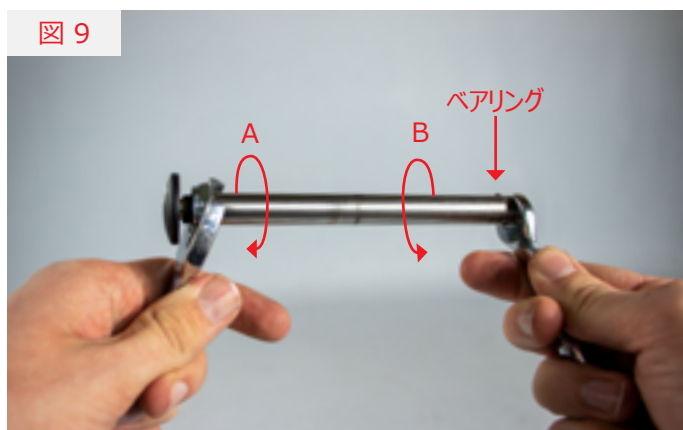
2.1: 後輪の着脱

クイックリリース ボタンを押し、ホイールを外側に引きます。(図 7) 取り付けの際は、ボタンを押したままクイックリリース アクスル（車軸）ピンが、定位置でカチッとするまで、車軸に入れます。(図 8) 使用前に、左右両方のホイールが完全に固定されているか確認します。もしホイールが、内側外側に動かせたり、緩いと感じたりする場合は、ピンの調整が必要です。



2.2: クイックリリース アクスル（車軸）ピンの調整

ホイールが固定されない場合や、ホイールが緩いと感じた時のみ、クイックリリース アクスル（車軸）ピンの調整を行ってください。長さを調整するには、ホイールからアクスルピンを取り外し、図9のように2本の調整可能スパナ/レンチを使用し、必要に応じてピンを伸ばしたり縮めたりします。



A = 長くする B = 短くする

⚠ 警告 :

クイックリリース アクスル（車軸）ピン を調整する場合 - 車いすの両側のホイールがロックされていることを必ず確認してください。
後輪を取り付ける際は、確実に取り付けられていることを必ず確認してください。車いすを操作する前に、後輪を引っ張り、クイックリリースアクスルのデイトンピン/RGKキャップが完全に解放されていることを確認してください。

リアホイール（後輪）は引っ張っても抜けないはずです。

⚠ 警告 :

リアホイール（後輪）のサイズを変更すると、車いすのパフォーマンスと安定性に重大な影響を与えます。

手順 3 - タイヤとチューブ

車と同じように、タイヤは擦り切れます。その期間は、使用方法によって異なります。
タイヤの溝がなくなってきたら、両方のタイヤを交換することを推奨します。
空気入りタイヤは、パンクの危険性があります。車いすが適切に機能するために、中のチューブも交換する必要があります。

3.1: タイヤの交換

車いすからホイールを取り外し、バルブ内の小さなピンを押してチューブ内の空気を抜きます。仏式バルブの場合は、先端とベースの固定リングの両方のネジを外し、空気が抜けるまで先端を押します。タイヤレバーを 2 本使用し(ツールキットに入っています)、ホイールリムからタイヤを完全に取り外します。ホイールリムから、チューブとタイヤを取り外します。

タイヤを取り付けるには、ホイールリムに新しいタイヤの片側を入れます。そして、タイヤの内側にチューブを入れ、ホイールリムの穴とバルブを合わせます。タイヤレバーを使って、ホイールリムにタイヤのもう片側のビードをはめる前に、チューブがねじれていないか、張力に片寄りがないか確認します。チューブが挟まらないように気を付けてください。

タイヤとチューブがホイールリムに収まったら、固定リング (ある場合) を戻し、タイヤに空気を少し入れます。チューブとタイヤを調整し、ホイールリムに上手くはまるようにします。そして推奨される空気圧まで空気を入れます。

3.2: チューブの交換

上記の方法をくり返します。タイヤは完全に外さず、チューブのみを取り外します。もし問題が続くようであれば、タイヤとチューブを取り外し、ホイールリム内にパンクの原因となる鋭い部分がないか確認します。

手順 4 - キャスターホイールとフォーク

車いす前方にあるキャスターホイールは、タイヤと同じように摩耗します。目に見えて磨耗していたり、亀裂が入っていたりしたら交換しなければなりません。

4.1: キャスターホイールの交換

ツールキットの4mm六角レンチ2本を使用し、図9のように、キャスターホイールの中央にある2本のネジのうち1本を取り外します。ネジを取り外し、もう1つのネジが付いた状態で、キャスターの車軸を外します。スペーサーとポジションに気を付けてください。新しいキャスターホイールを入れて、キャスターの車軸を元に戻し、最後のネジを締めます。

4.2: キャスターフォークの交換

ツールキットの六角レンチを使って、キャスターハウジングの後ろにあるボルトを外します。次に専用スパナを使い、フレームを保持しながら、図9のようにキャスターフォーク アセンブリーを外します。キャスターアセンブリー全体のネジを外すことで、ベアリングとキャスターフォークに手が届きます。ソケットを使ってナットを外し、フォークを外します。取り付けの際は、ハウジングを目一杯ねじ込み、固定ボルトが締まるように穴を合わせてください。

図 9



注意：

キャスターベアリングの取り付けは、必ず正規販売店で行ってください。これを怠ると、その部品の保証が無効になります。

⚠ 注意：

車いすに元々使用していたサイズ以外のキャスターフォークや、前方キャスターホイールに交換しないでください。
異なるサイズのキャスターフォークやキャスターホイールに変更することは、車いすの走行や利用者のバランスに悪影響を及ぼし、人身事故の原因となります。

手順 5 - ブレーキ

ブレーキは、タイヤの交換や摩耗に合わせて位置を調整できます。タイヤが摩耗すると、ブレーキが意図した通りに車いすを保持できなくなることがあるため、タイヤの状態に合わせて調整する必要があります。

5.1: ブレーキの調整

ツールキットに入っている5mmの六角レンチを使用し、プレートの下側にある2本のネジを外します。(図 9 A)ブレーキが緩んだら、ブレーキを掛けた時に、少なくとも 3mmの干渉があるように位置を変えます。しっかりとしめて、反対側も同様に行います。ブレーキはホイールに対して、しっかりと固定されていないといけませんが、使う時には余計な力を加えなくても使用できるようでなければいけません。



注意：

ブレーキを調整したり、他の種類に交換する前に、タイヤに表示されている推奨空気圧まで空気を入れてください。



(図 10)解除時



(図 11)ブレーキが掛かった状態

警告：

調整、修理、点検の後、使用する前に、すべての取り付け金具がしっかりと締め付けられていることを確認してください。さもないと、怪我や破損の原因となります。ブレーキで車いすを固定できない場合は、上記のように調整するか、販売店にご連絡ください。さもないと、怪我や破損の原因となります。ブレーキは、車いすが静止しているときに機能するように設計されています。使用中はブレーキをかけないでください。タイヤ空気圧はタイヤに表示されている通りにしてください。

手順 6 - フットレスト

フットレストは、車いすを初めてご使用になる時、状況が変わった時、または固定具が緩んだ時などに調整が必要になる場合があります。定期的に高さをチェックし、必要に応じて調整することが重要です。

6.1: フットレストの高さを調整

フットレストは、3段階の高さに調節可能です。調整する前に、フットレストの現在の位置をメモするか、必要に応じて印を付けてください。ツールキットの4または5mmの六角レンチを使い、フットレストクランプの2本のネジを外します。フットレストを次の正しい穴の位置に戻し、ネジをしっかりと締めます。



警告：

この車いすを使用する際、突起物にぶつからないようにするため、フットレストアセンブリは地面や床から少なくとも40mm以上高くしなければなりません。

手順 7 - プッシュハンドル

この車いすには、介助者が使用するための様々なプッシュハンドルが付属しており、以下の手順に従って操作することができます。

7.1: フリップダウン プッシュハンドルの操作

ハンドルの下のボタンを押し、同時にハンドルを押し下げます。反対側も同様に行います。カチッと音がするまでハンドルを引き上げて、元の位置に戻します。



警告：

取り外し可能な部品を持って、車いすを持ち上げないでください。
例：高さ調整式プッシュハンドル、折りたたみ式プッシュハンドル、ネジ式プッシュハンドル

手順 8 - 転倒防止

転倒防止は車いすをより安定させるために使用することができ、医療専門家によって推奨されています。

8.1: 転倒防止シングルスポーツ

転倒防止を取り外すには、クイックリリース ピンを解除し(図14A) チューブを抜きます。

警告：

フレームに取り付けられているクランプ金具は工場で取り付けられており、認可を受けた車いす技術者でない限り取り外すことはできません。

警告：

RGKは、車いす使用者の追加の安全装置として、転倒防止のご注文を強くお勧めします。

警告：

転倒防止は、完全に作動している必要があります。転倒防止の解除ボタンが、転倒防止ソケットの穴から完全に出ていることを確認してください。

左右の転倒防止が、同じ高さに調整されているか確認してください。

図 14



手順 9 - サイドガード

サイドガードは使用者を支え、衣服が汚れるのを防ぎます。メンテナンスはほとんど必要ありませんが、交換は下記の通りです。

9.1: サイドガードのネジ

リアホイール（後輪）を取り外します。ツールキットの4mm六角レンチを使用し、サイドガードのネジを緩めます。(図15 A) 取り付けるには、すべてのネジを固定しますが、すべてが所定の位置になるまで締め付けしないでください。ネジ山をなめないように注意してください。

図 15



輸送

危険！

このアドバイスに従わなかった場合、重傷または死亡の危険性があります。

車内での車いすの搬送

車いすを車内に固定しても、車の座席システムと同等の安心・安全は得られません。必ず車載シートに移乗することをお勧めします。このような状況に於いてRGKでは、利用者が移乗することが必ずしも現実的でないことは認識しており、衝突試験を受けた車いすの使用を推奨しています。

技術的データ

内容	最小	最大
耐荷重	—	110 kg
レッグレストを含む全長（ホイールなし）	390mm	625mm
全幅（シート幅）	250mm	440mm
折りたたみ時の高さ（フォールディングバック使用時のみ）	—	—
総質量（ホイール付き）	5 kg	15 kg*
最重量部の質量（輸送時の重量）	3 kg	12 kg*
下り坂での静的安定性	—	5° の傾斜
上り坂での静的安定性	—	5° の傾斜
横方向の静的安定性	—	5° の傾斜
座角度	0°	45°
有効シート奥行	250mm	440mm
前座高	380mm	520mm
背角度	-10°	20°
バックレスト高	150mm	400mm
フットレストからシートまでの長さ	200mm	520mm
脚から座面までの角度	70°	90°
アームレストからシートまでの長さ	—	—
アームレスト構造の前方位位置	—	—
ハンドリム径	24インチ	25インチ
車軸の水平方向の位置	25mm	125mm
最小回転半径	270mm	—

* 重量 第三者製の製品を除く

寸法は製造上の許容誤差に従います。

アイテム	トルク
ブレーキ	10Nm
フットレスト高さ調整	10Nm
その他すべての製品	10Nm

注意：

RGK Wheelchairs Ltd. 製の車いすはオーダーメイドのため、お客様の車いすが上記のサイズより下回る、または上回る可能性があります。

リサイクル(再利用)/廃棄

車いすを再利用する前に、入念な準備が必要です。
使用者と接触するすべての表面は、洗浄し、消毒スプレーで処理しなければなりません。

次のセクションでは、当社の車いすに使用されている素材について説明します。

カーボンファイバー：フレーム、キャスターフォーク、サイドガード、フットレスト、フットプレート、シートプレート

アルミニウム：フレーム、キャスターフォーク、ホイール、サイドガード、アームレスト、フットレスト、ハンドリム、転倒防止、フットプレートカバー

スチール：フレーム、固定箇所、クイックリリース アクスル（車軸）ピン、フットレスト、転倒防止、フレームホイール、留め具、ブレーキ、フットプレートカバー

チタン：フレーム、キャスターフォーク、クイックリリースアクスル（車軸）、留め具、サイドガード、転倒防止、フットレスト

プラスチック：ハンドル、チューブ留め、キャスター、フットプレートカバー、アームパッド

梱包：ポリエチレン製ビニール袋、段ボール

生地製品：ポリエステル織物、綿、皮革



廃棄またはリサイクルは、廃棄業者または公共の廃棄場で行うこと。

注意：

再使用時の衛生対策：

車いすを再利用する前に入念な準備が必要です。使用者と接触する全ての表面は、消毒スプレーで処理しなければなりません。そのためには、速やかに消毒する必要がある医療品や医療機器には、その国で認可／推奨されている即効性のあるアルコール系消毒剤を使用する必要があります。

使用する消毒剤のメーカーの指示に注意してください。

一般的に、縫い目を完全に消毒することは保証できません。従って、活性剤による微小細菌汚染を避けるため、お住まいの地域の感染防止法に従って、座布および背布を廃棄することをお勧めします。

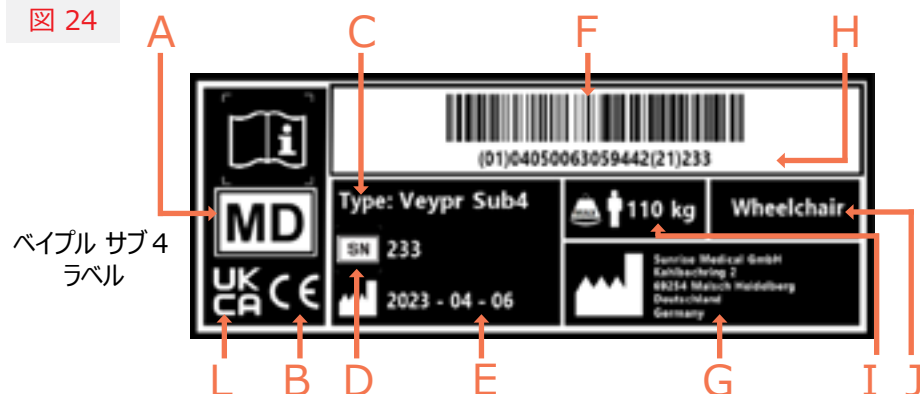
識別番号 / シリアルナンバー

お客様のオーダーメイド車いすのシリアル番号は、シート下のクロスブレースバー(J 製品説明)またはキャンバーバー(H 製品説明)、または背もたれの背布(A)に記載されています。

交換部品のご注文の際は、以下の情報をお知らせください。

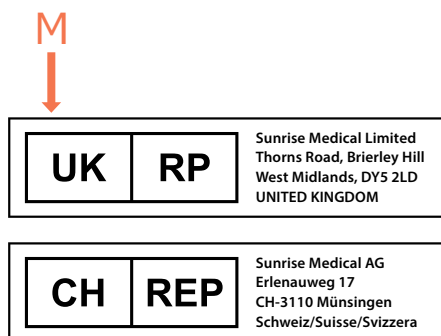
シリアルナンバー：
お名前：
代理店：

図 24



RGK 車いす ラベル情報

- A - 医療機器
- B - CEマーク
- C - 機種
- D - シリアルナンバー
- E - 製造年月日
- F - 医療機器標準バーコード
- G - 製造住所
- H - 医療機器標準バーコード
人間判読版
- I - 耐荷重
- J - 使用用途
- K - 輸入者の住所
- L - UKCAマーク
- M - 英国責任者 / スイス代表



製造会社保証

この保証は、お客様の法的権利に何ら影響を与えるものではありません。

RGK*は、保証条件に定めるとおり、車いすをご購入いただいたお客様に対し、以下を対象とした保証を提供します。

保証条件

車いすの部品やパーツが、製造上および／または材料上の欠陥により、お客様への納入後12ヶ月以内、フレームおよびクロスブレイスについては5年以内に修理または交換を必要とする場合、当該部品またはパーツを無償で修理または交換いたします。

お客様の負担で取り付けられた純正交換部品について、この保証条件に従って、(取り付け後)12ヶ月の保証が提供されます。

フレームの表面仕上げは保証の対象外であり、これは表面の損傷、擦り傷、擦り傷を含みます。

1. 保証を実施するには、製品を購入された地域の販売店に、問題の詳細について正確にご連絡ください。販売代理店の営業地域外でお客様が車いすを使用される場合、修理または交換はメーカー指定の他の代理店でも行います。車いすの修理は、必ずRGK指定のカスタマーサービス代理店（販売店）にて行ってください。
2. 本保証の範囲内で修理・交換した部品については、当社は1．に基づき、車いすの残りの保証期間について、本保証約款に基づく保証を提供します。
3. お客様の負担で取り付けられた純正交換部品については、この保証条件に従って、(取り付け後)12ヶ月の保証が提供されます。
4. パッド、タイヤ、インナーチューブなどの消耗部品は、その部品の早期摩耗が製造上の欠陥による直接的なものである場合を除き、保証の対象外となります。
5. 以下の理由により、車いすまたは部品の修理または交換を必要とする場合、本保証の請求はできません：
 - 製品または部品が、取扱説明書および／またはサービス指示書に示された製造者の推奨に従って保守または手入れされていない場合。
 - 純正付属品として指定されていない付属品が使用されている場合。
 - 放置、事故、不適切な使用により車いすまたは部品が損傷した場合。
 - 車いすまたは部品に製造会社の仕様から逸脱した変更や改造が行われた場合。
 - 弊社カスタマーサービスに連絡する前に修理が行われた場合。
6. この保証は、製品をRGKから購入した国の法律の適用を受けます。

* 製品を購入した RGK の正規販売代理店を意味します。



Sunrise Medical GmbH
Kahlbachring 2-4
69254 Malsch/Heidelberg
Deutschland
Tel.: +49 (0) 7253/980-0
Fax: +49 (0) 7253/980-222
www.SunriseMedical.de



Sunrise Medical
Thorns Road
Brierley Hill
West Midlands
DY5 2LD
England
Phone: 0845 605 66 88
Fax: 0845 605 66 89
www.SunriseMedical.co.uk



RGK Wheelchairs LTD.
Unit 8 A/B/C Ring Road Zone
2, Burntwood Industrial Estate,
Burntwood, Staffordshire, WS7
3JQ, UK

Call: +44 (0) 1543 670 077
Email: info@rgkwheelchairs.com

サンライズメディカルジャパン株式会社

〒349-1145

埼玉県加須市間口456番地1

e-mail : info@sunrisemedical.jp

website: <https://sunrisemedical.jp/>

